



八幡小の公式HP <http://www.city.kita.tokyo.jp/gakkoshien/kosodate>

[/shogakko/gakkojoho/kuritsu/hachiman/index.html](http://www.city.kita.tokyo.jp/shogakko/gakkojoho/kuritsu/hachiman/index.html)

八幡だより

北区立八幡小学校 令和4年10月 第392号



子供をみる「三つの『み』」

副校長 米田 靖彦

八幡小の子供たちは、今まで頑張ってきたことや学校生活を振り返り、1学期の学習面や生活面などのまとめをしているところです。

さて、私は教職員に子供たち一人一人をよく見てほしいと呼び掛けています。もちろん保護者の方にも「よく見てあげてください。」と言うことも話してきました。一口に子供を「よくみる」と言いますが、そんなに簡単なことではないと思っています。私が考えているのは「三つの『み』」です。

まず一点目は、「見逃さない」の「み」です。

「うちの子は、いつもこうだから安心だ。」と、決めてかかっているはいないでしょうか。子供はいつもよい行いだけをするとはいりません。はじめは好ましい状態であっても、終わりは・・・ということもあります。また、好ましくない行いがあったので、十分注意したからと言っても安心とは限りません。子供たちの「今」の姿を見逃さないことです。

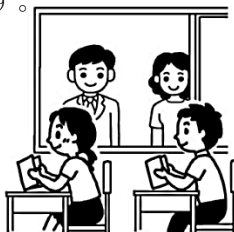
次に二点目は、「認める」の「み」です。

「このくらいのことはできて当たり前。」という言葉を使ってしまうことはありませんか。最後まで頑張って続けることができたり、責任をもって仕事ができたりしたら、大いに褒めてあげてください。大人の解釈ではなく、『認める・褒める・勇気づける・励ます』言葉は惜しみなく与えるべきだと思います。

最後三点目は、「見つめ続ける」の「み」です。

見逃さずに認めてあげるためには、子供をよく見ていなければなりません。ある時点だけではなく、ずっと見つめ続けることが大切です。例えば、仕事を頼んだとき、その仕事の取りかかりから仕上がりまでどんな様子であったのか、朝食のときは元気がなかったけれど、夕食のときはどうだったのかなど、いろいろな場面で、子供を見つめ続けていくということなのです。

このようにして子供をみることで、子供への接し方は変わっていきます。接し方が変わると、子供も心を開き、安心して自分を表現することができるようになります。子供を見て、気になることや心配なことがあったらすぐに寄り添い、話を聞くことです。もちろん担任や学校とも連絡を取り合い相談してください。家庭と学校が同じ視点で、子供たちを育成することの大切さに、ご理解ご協力をいただけたら幸いです。



10月の土曜授業について

二年間中止になっておりました八幡フェスティバルを10月15日(土)に開催いたします。新型コロナウイルス感染拡大防止と、皆様と子供たちの健康を第一に考え、保護者の皆様は廊下からの参観になります。教室内の人数制限と、限られた時間で子供たちがより多くのお店を回るできるよう、ご理解ご協力のほど、お願いいたします。

9月17日(土) 夏休み作品展

普段の生活の中から発想したり、みんなが楽しくなるような工夫を凝らしたりと、どれも力作ぞろいの見ごたえのある作品展になりました。



荒馬度公演

9月20日(火) スクールコンサート

